月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol.105



今回も引き続き冒険を
盛り上げるDLCの
数々が登場！
『イースIX
-Monstrum
NOX-』

ラグナが運命の出会い!?
その気になるお相手は!?
も～っと集まれ！
ファルコム学園

『軌跡』シリーズ15周年！
ロイドのゲームでは
描かれなかった過去を描く
英雄伝説
零の軌跡 四つの運命

10月といえばやっぱりハロウィン！
『英雄伝説 暁の軌跡』
ファルコムニュース

導力停止現象に揺らぐ王都
エステルたちにできることとは……

英雄伝説 空の軌跡SC
～絆の在り処～



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

序文

自分ではない何者かになる。
そんな夢を見たことがあるだろうか？

その夢の中で私は考える。
これは自分なのか、自分ではないのか。

夢が現実なのか、現実が夢なのか？
私が辿り着いた答えはひどく単純だ。

『どちらでもいいではないか』

どちらが真実なのか——ではない。
どちらも真実なのだ。

『バルドゥークの檻』本文より～



前号では紹介しきれなかった10月配信分のDLCをチェック！

好評発売中！

『イースIX -Monstrum NOX-』

『イースIX -Monstrum NOX-』の発売から1ヶ月！ 今号では前号では紹介しきれなかったものや、画像が到着していなかったDLCアイテムの数々を一挙紹介！ そろそろ周回をしてみようと思っているプレイヤー諸氏は気分転換にいかが!?

タイトル：イースIX -Monstrum NOX- **発売日**：好評発売中
ジャンル：アクションRPG **対応機種**：PlayStation®4 **プレイ人数**：1人
小売価格：［通常版］7,800円(税抜)［数量限定コレクターズBOX］9,800円(税抜)
［DL版］7,741円(税込)
CEROレーティング：B

※画像は開発中のものです。

好評配信中！



ザ・モンストルム・ショー《鷹》 350円

壮絶な空中演技を誇る"嵐の王子"の衣装。
「ウチじゃ荒らしの王子だけどね……」
とは某店主談。





ザ・モンストルム・ショー《人形》 350円

冷徹無比なナイフスローとのギャップが
魅力的な、華やかで愛らしい道化衣装。





ザ・モンストルム・ショー《猛牛》 350円

《猛牛》の豊かな魅力が今にも
零れ落ちんばかりの夢のステージ衣装。





ザ・モンストルム・ショー《背教者》 350円

小悪魔的な魅力を引き出す道化衣装。
密かなお気に入りのラルヴァ（邪霊）が
モチーフになっている。





デリシャスウェポンセット　300円

怪人たちの武器をユニークな見た目に変更できる
DLC限定のアタッチアイテムです。

●ナインスクリメイション
9種類の食材を一突きにし、無慈悲に火葬した呪われし魔剣。



●ダンデリオンドリーム
バー『ダンデリオン』自慢のスイーツをとことん詰め込んだヘビィ級カロリーウェポン。

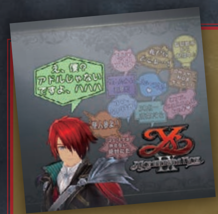


●プリンセス・シュー
とにかく可愛くて美味しいスイーツ武器。深く考えずに感じてほしい一品である。

●キリングキャンディ
触れたものを全て斬り落とす鮮血と狂乱のキャンディ。思ったよりも甘すぎない優しい味である。

●デスオブグリーンオニオン
相対した者が涙を流しながら許しを乞うと言われる、死と苦しみをまとった罪深き奇剣。

●獄炎金時
煉獄より喚ばれし断罪の火炎によって程よい具合に焼き上げられた薩摩芋。



自己主張の激しいパネル　100円

プレイヤーキャラの頭上に特殊なメッセージパネル（12種）を
表示させることができます。

●あなたのくらしにペンドルトン
●みぃ～つけた♥
●花びらどこぉ…？
●溜めるぜ！ NOXゲージ！！
●怪人たちよ刻限だ
●え、僕？ アドルじゃないですよ、ハハハ
●30点…落第だな
●ヌフフ、ニュルニュルじゃよ♥
●はい、ラクリモサ！
●フェリクス許さない、絶対にだ
●怪人参上！！
●監獄都市から配信中♪





はぐはぐ白猫　100円

怪人《白猫》が元気にはぐはぐしてくれる
アタッチアイテム。





はぐはぐモルビアン　100円

謎の生物「モルビアン」がぬるっと
はぐはぐしてくれるアタッチアイテム。





アイウェアコレクション Vol.2　100円

アイウェアを装着できるDLC限定の
アタッチアイテムです。デザインの異なるおしゃれな
アイウェアを3種類まとめて購入できます。

●ダークブラインド
完全な闇をもたらす漆黒の目隠し。怪人ならそれくらいへっちゃらだ。

●グリムアイパッチ
可愛い色合いが特徴的な、遊び心溢れる眼帯。

●フェイスバンテージ
片目を覆うバンテージ。ちょっとだけ格好つけたいアナタへ。





ユニーク仮面セット　100円

デザインの異なるユニークな仮面を
装着できるDLC限定のアタッチアイテムです。

●ピッカードのお面
ピッカードのお面でお祭り気分を楽しもう♪

●ラルヴァリーフェイス
ラルヴァ(邪霊)を模した、ちょっと不気味な仮面。

●黒の怪盗
世間を騒がす『黒の怪盗』に扮する仮面。

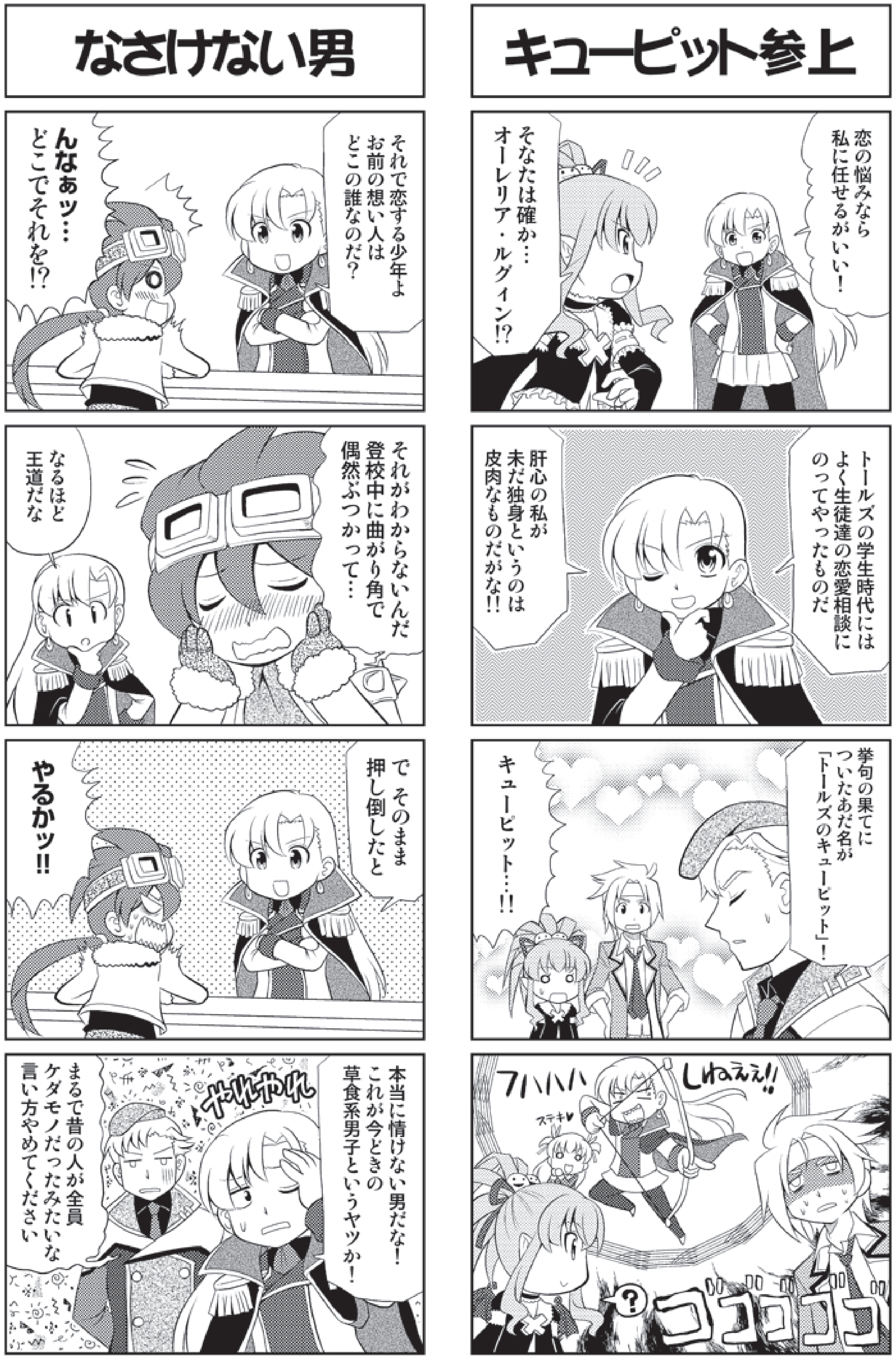


無料お試しセット2　無料

プレイヤーキャラのレベルを上昇させる特別な秘薬
『修験者の秘薬』を入手できる、お得な無料コンテンツです。
●修験者の秘薬 × 1

★秋は恋の季節なのです★


怪人に注意!
ハァ…
も〜っと集まれ!
FALCOM
ファルコム学園
新久保だいすけ
どうしたラグナ朝っぱらからため息などついて
……
——って無視か!!
朝からずっとこの調子なんです
俺にはわかるぜアレは恋をしている顔だ!
こ恋の顔!?
今…僕の悪口を言ったのは誰だい?
濃い顔は帰れ


キューピット参上
恋の悩みなら私に任せるがいい!
そなたは確か…オーレリア・ルグィン!?
トールズの学生時代にはよく生徒達の恋愛相談にのってやったものだ
肝心の私が未だ独身というのは皮肉なものだがな!!
挙句の果てについたあだ名が「トールズのキューピット」!
キューピット…!!
フハハハ
しねぇぇ!!
ステキ♥
?
ゴゴゴゴゴ
なさけない男
それで恋する少年よお前の想い人はどこの誰なのだ?
んなぁッ…どこでそれを!?
それがわからないんだ登校中に曲がり角で偶然ぶつかって…
なるほど王道だな
でそのまま押し倒したと
やるかッ!!
本当に情けない男だな!これが今どきの草食系男子というヤツか!
やれやれ
まるで昔の人が全員ケダモノだったみたいな言い方やめてください

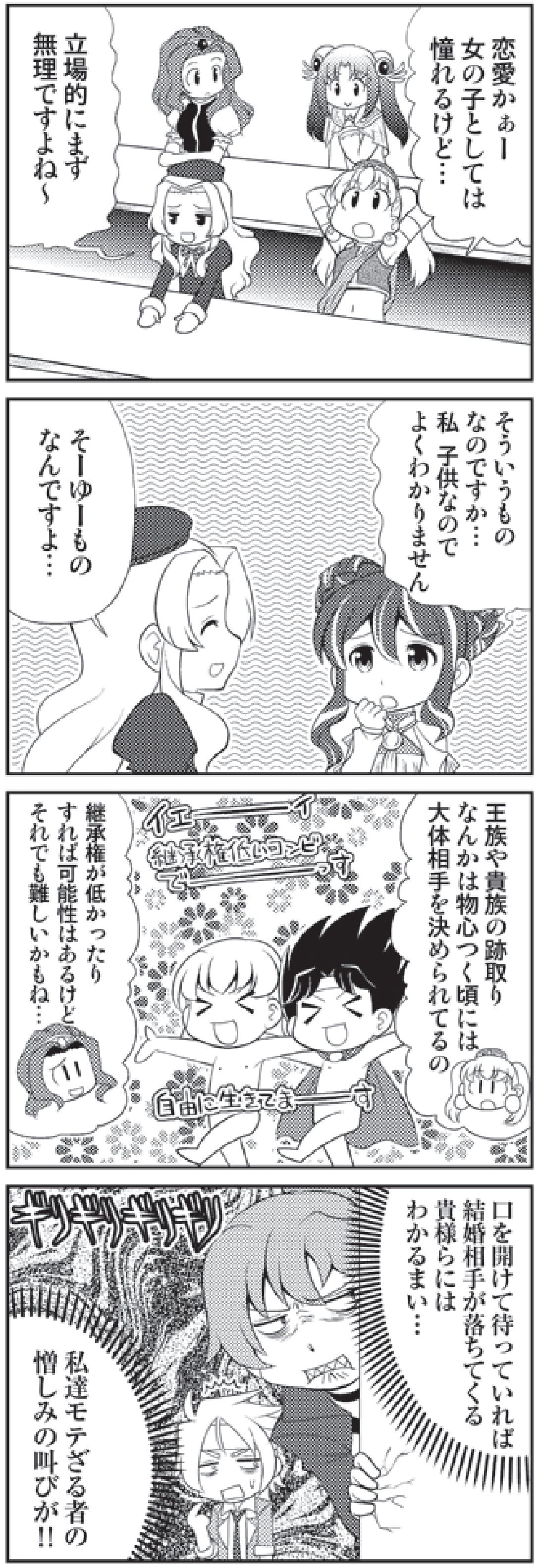
心配する妹



白い美少女



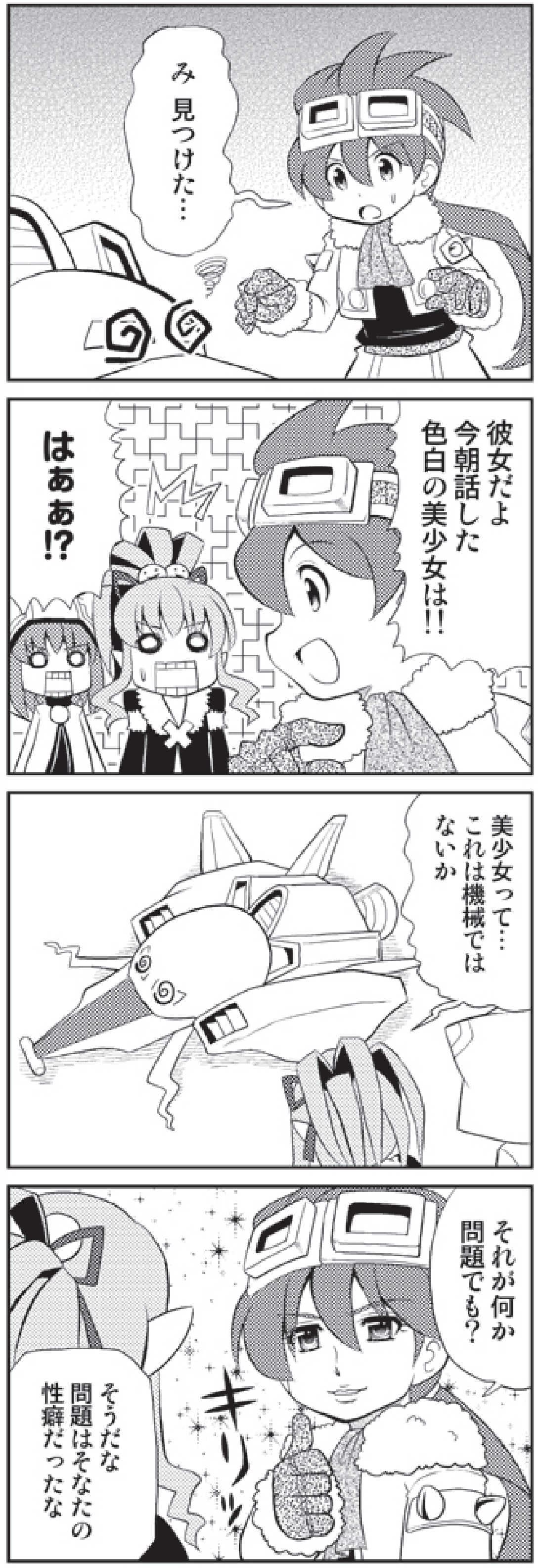
立場と恋愛



王道の出会い



問題の男



ゴーファイの由来



こらえきれない妹



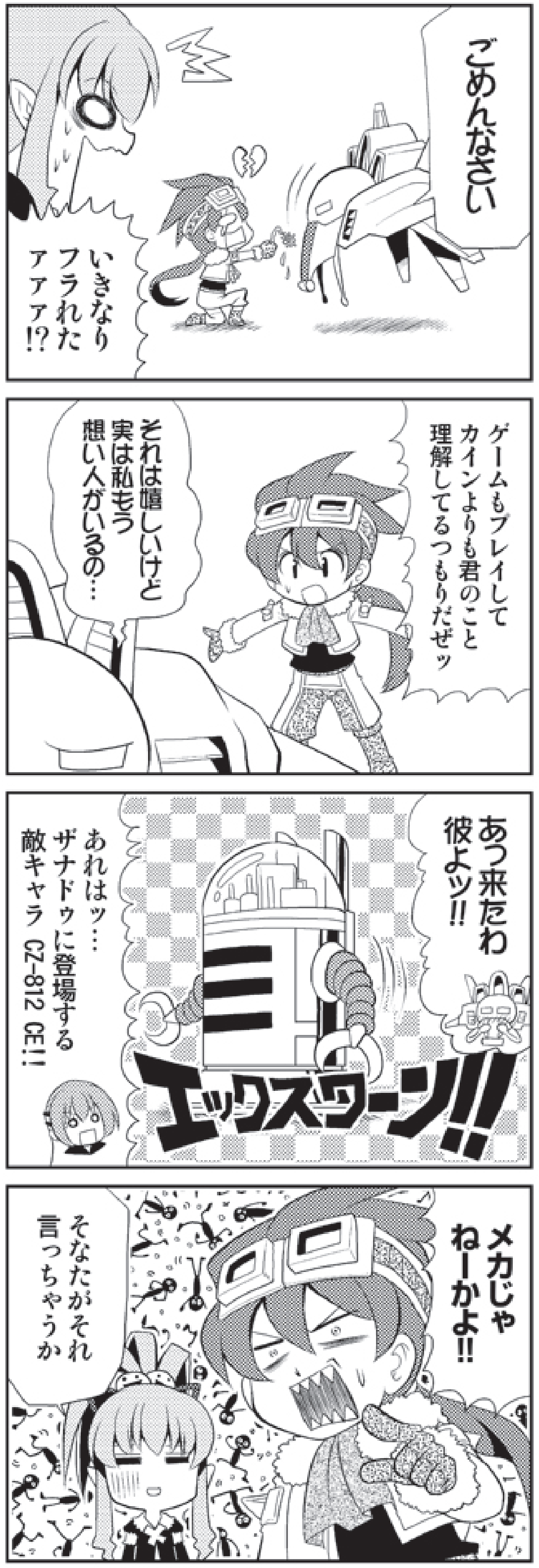
千のフラグを持つ男



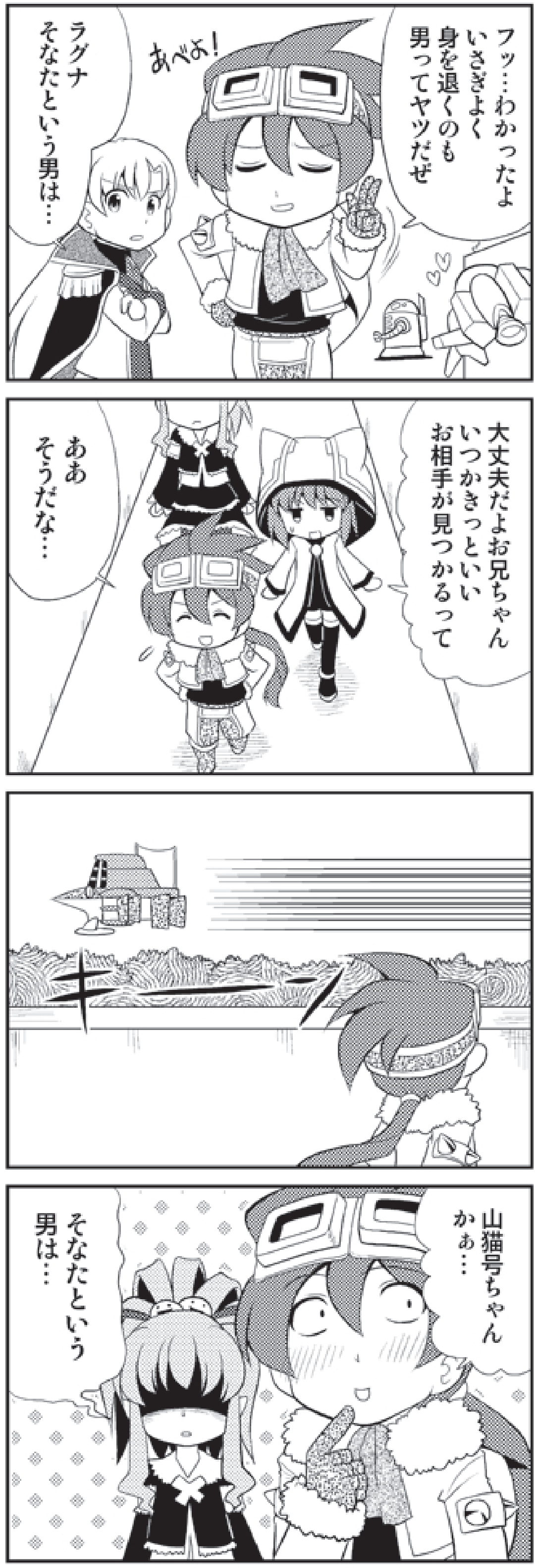
いい時代



ゴメンナサイ

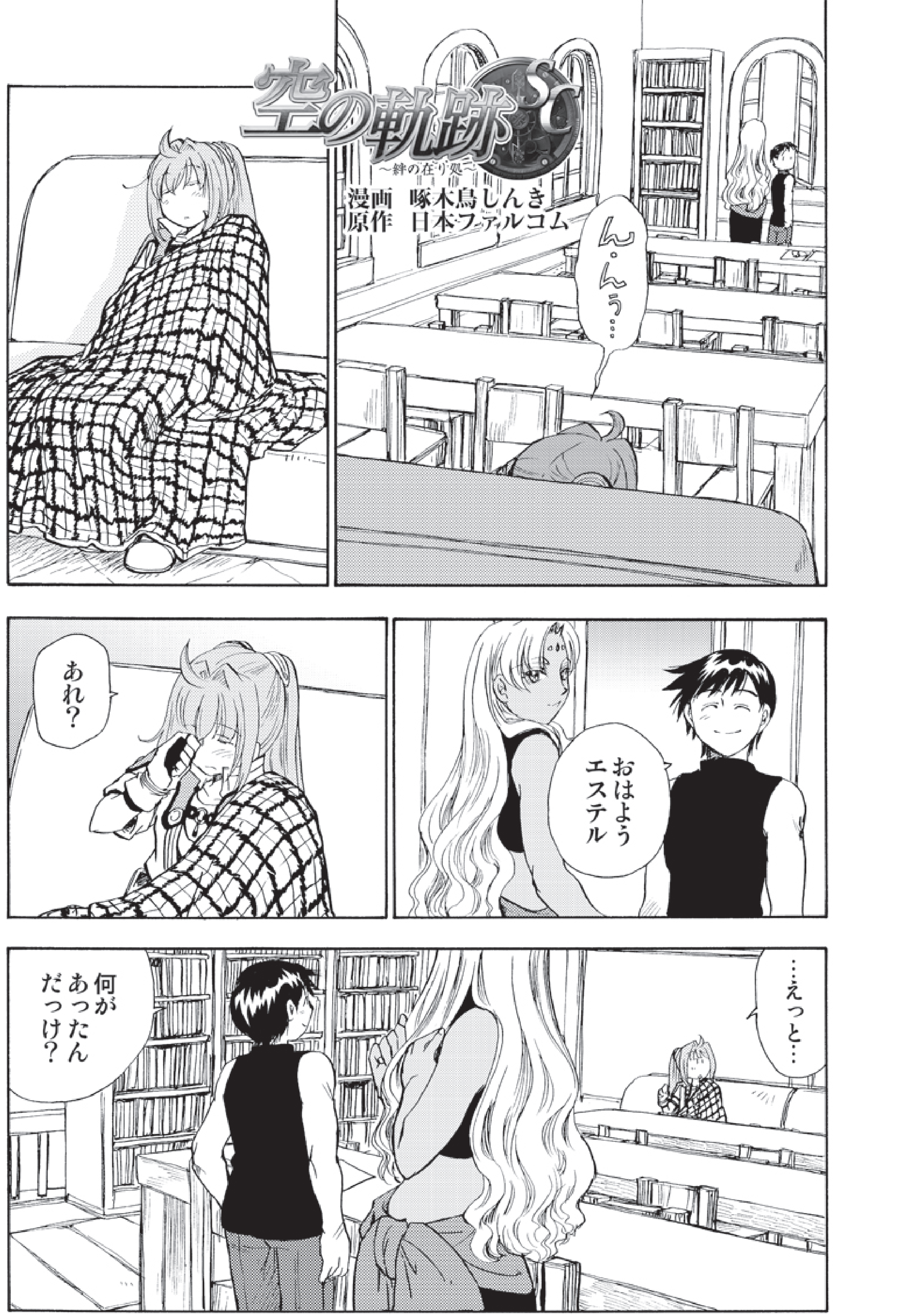


ラグナという男

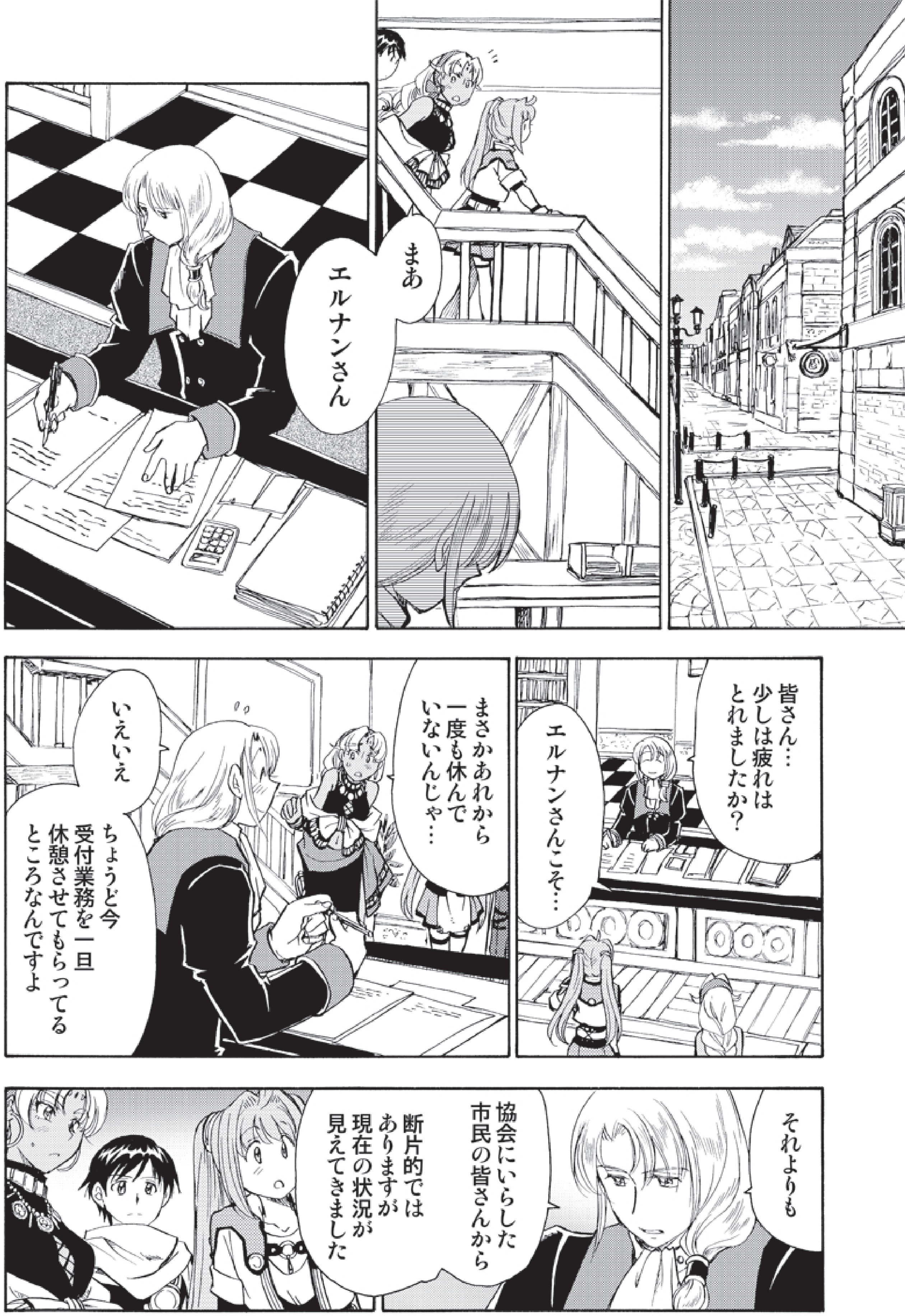


校長命令!

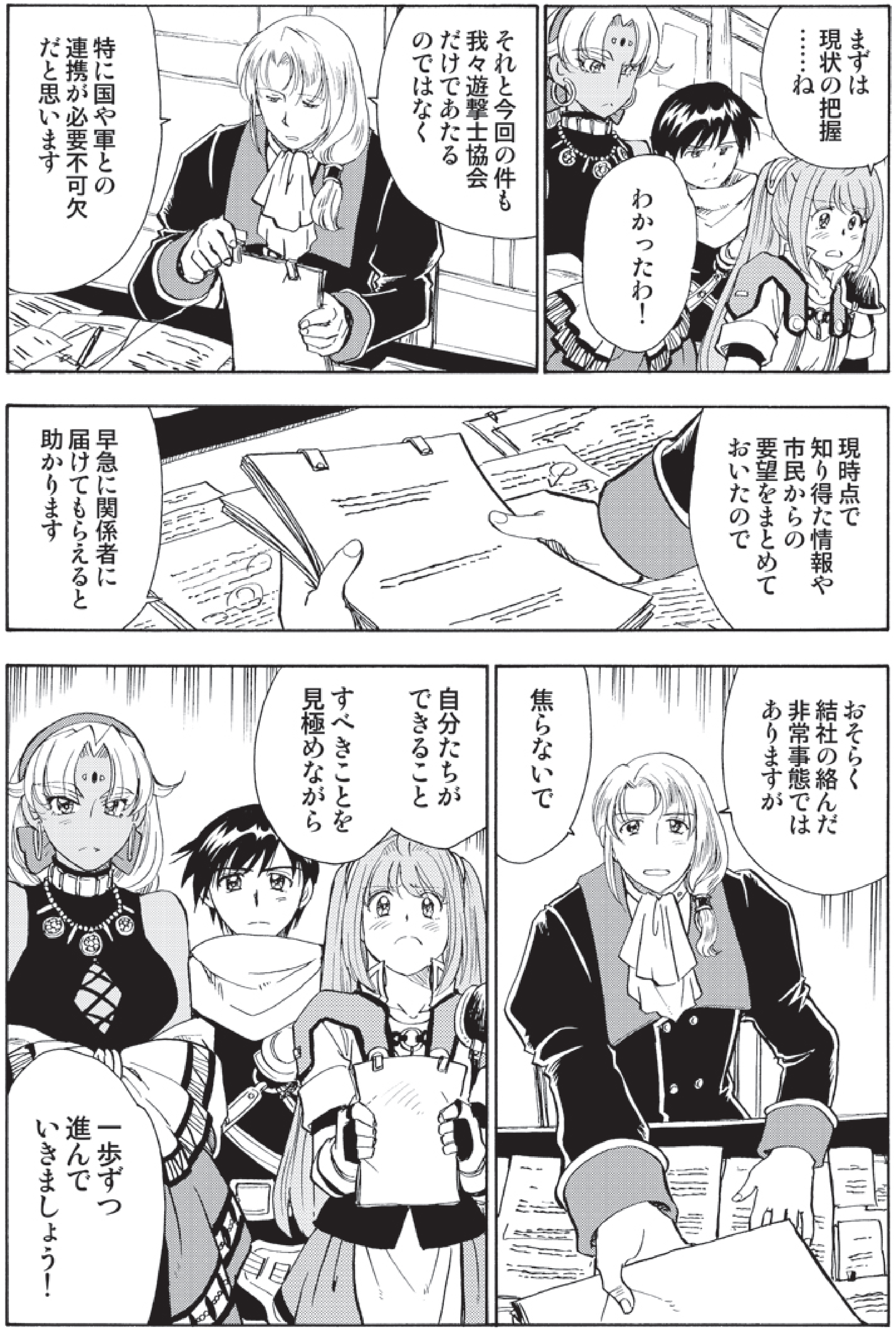


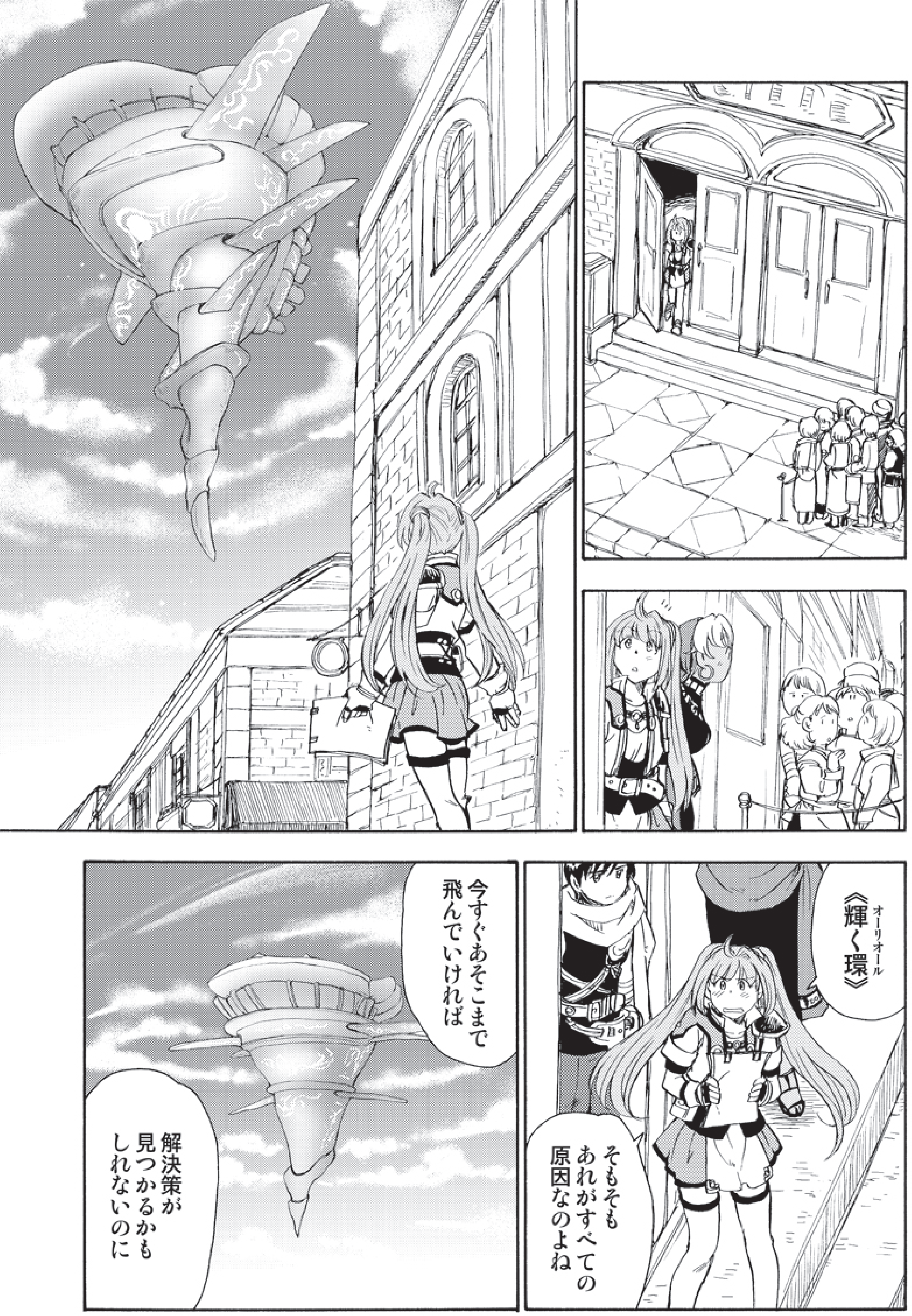

空の軌跡SC
～絆の在り処～
漫画　啄木鳥しんき
原作　日本ファルコム
ん・んぅ…
あれ？
おはよう エステル
…えっと…
何が あったん だっけ？


ヴァレリア湖上空に 巨大な浮遊物体が 現れたのよ
そこから 光の波のような ものが 発せられて
あらゆる導力器(オーブメント)が 作動しなくなって しまったようなの
それからすぐあとから 困った市民の人たちが 遊撃士協会に 依頼に来られて
その対応に 追われてる うちに
体力の限界が きちゃったん だよね
ごめん！ ごめん！
こんな時に！
もう 大丈夫よ！
簡単だけど お腹に入れたら
もうひと踏ん張り …いくわよ！
うん！


まあ
エルナンさん
皆さん…
少しは疲れはとれましたか？
エルナンさんこそ…
まさかあれから
一度も休んでいないんじゃ…
いえいえ
ちょうど今
受付業務を一旦
休憩させてもらってる
ところなんですよ
それよりも
協会にいらした
市民の皆さんから
断片的ではありますが
現在の状況が見えてきました

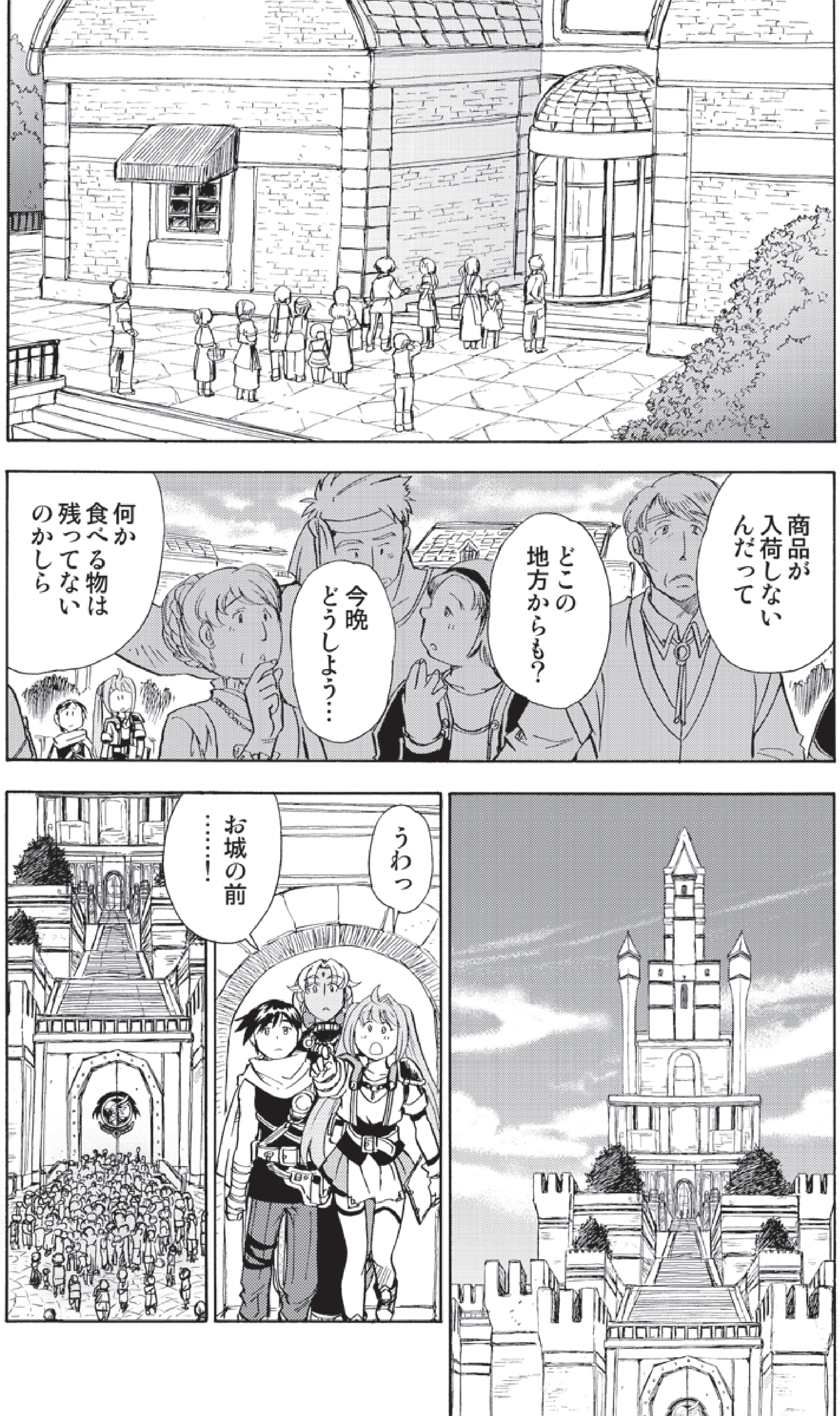

とにかく一番
問題になりそうなのが
浮遊物体の出現と
同時に起こった
導力停止現象
でしょうね
その規模は
少なくとも
グランセル市内全域に
及ぶとみて
間違いありません
王都にある
導力器（オーブメント）は
例外なくすべて
動かないようです
照明や暖房
水道といった
生活線の停止による
不安の声が
現時点では
一番大きく
早急に解消を
目指したいところ
なのですが
今回は被害が
広範囲に渡るため
王都支部だけでは
対処しきれません
しかし
導力通信が
使えないため
各方面とも
連絡ができず
最善の対策を
立てることも
できないのです
とにかく今は
少しでも
正確な情報を
手に入れ 現状を
把握したいところですね


まずは現状の把握……ね
わかったわ！
それと今回の件も我々遊撃士協会だけであたるのではなく
特に国や軍との連携が必要不可欠だと思います
現時点で知り得た情報や市民からの要望をまとめておいたので
早急に関係者に届けてもらえると助かります
おそらく結社の絡んだ非常事態ではありますが
焦らないで
自分たちができること
すべきことを見極めながら
一歩ずつ進んでいきましょう！


《輝く環(オーリオール)》
そもそもあれがすべての原因なのよね
今すぐあそこまで飛んでいければ
解決策が見つかるかもしれないのに


そういえばケビンさんは？
ほな！
ちょいといってくるわ！
彼なら早くに教会へ向かったよ
現状の確認や今後の方針を大司教様と話し合うみたい
そっか…
ケビンさんも頑張ってくれてるのね…
ねぇねぇ
あなたがた遊撃士さん？
大変なのよ家中の導力器（オーブメント）が止まってしまって…
水が出ないし火もつかなくて食事の用意ができないの
協会にお願いすれば直しにきてくださるかしら？
だいたいあの空に浮かんでるのはなんだい？
あれのせいで導力器が使えなくなっているのかな？
…また何か大変なことが起こる前触れなんじゃ…


だっ大丈夫！
絶対…なんとかしてみせるから！
だからみんな心配しないで！
もう少しだけ…待っててね！
はーい
御用は協会内でお聞きした後
必ず適切に対処しますから
焦らずに
受付が再開するまでもうしばらくお待ちください


商品が入荷しないんだって
どこの地方からも?
今晩どうしよう…
何か食べる物は残ってないのかしら
うわっ
お城の前……!

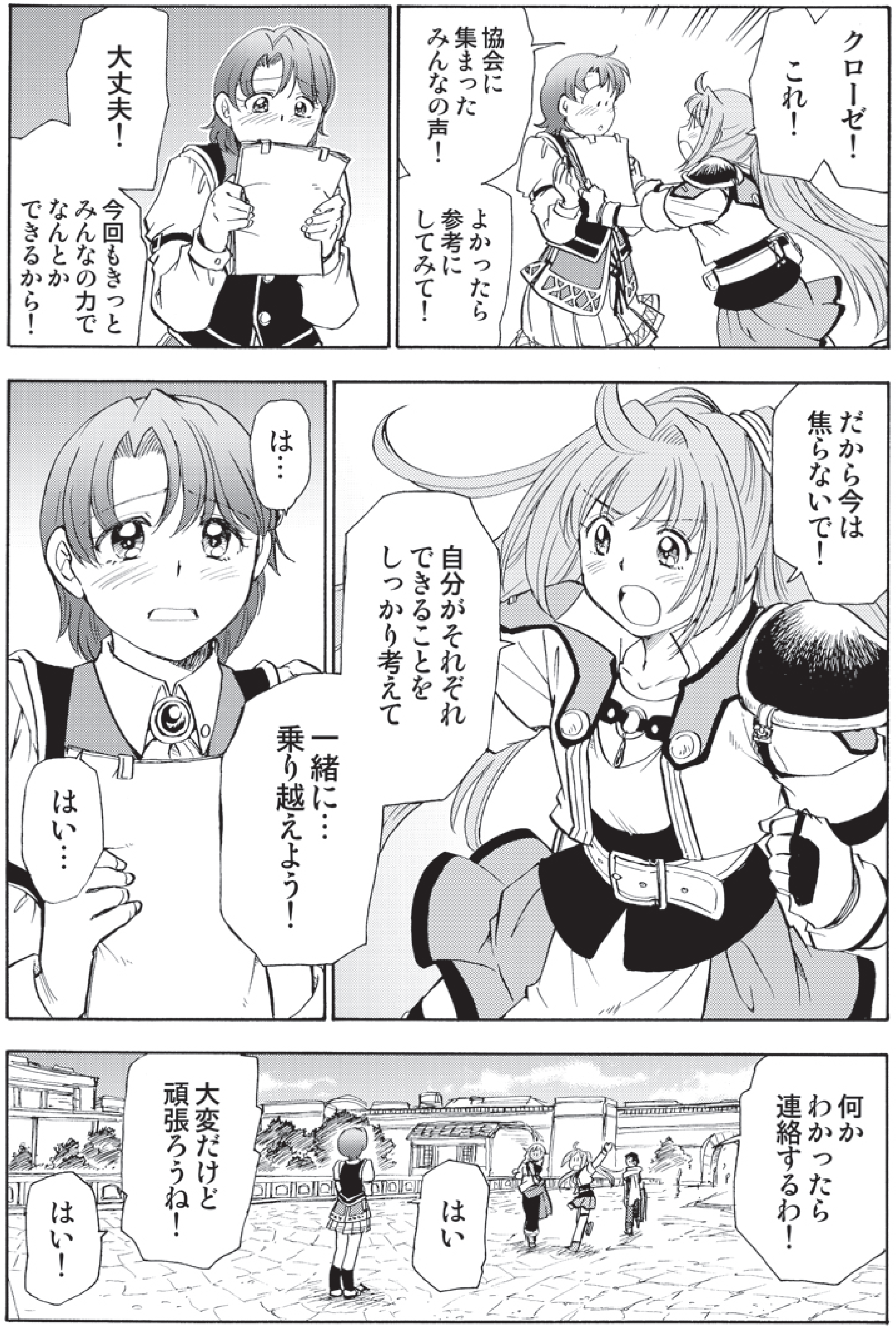

すっごい人…
そりゃそうよね…
困った時も女王様なら助けてくださるって思うわよ…
エ…
……
エステルさん…
…あ
クローゼ!
よかったクローゼ
そっちはどんな感じ?


グランセルは城内も城外も大混乱状態です
しかもそれはグランセル城だけでなく
同じことが城下町の広い範囲でも起こっているようなのです
突然 導力器が動かなくなって城の設備が使えなくなってしまって…
市民の皆さんが窮状を訴えに来られているのですが未だ対策がたてられず…
何をどうして差し上げたらいいのか…
クローゼ
あ…あの…っ
この事態の原因はやはりあの上空の浮遊島のせいなのでしょうか？

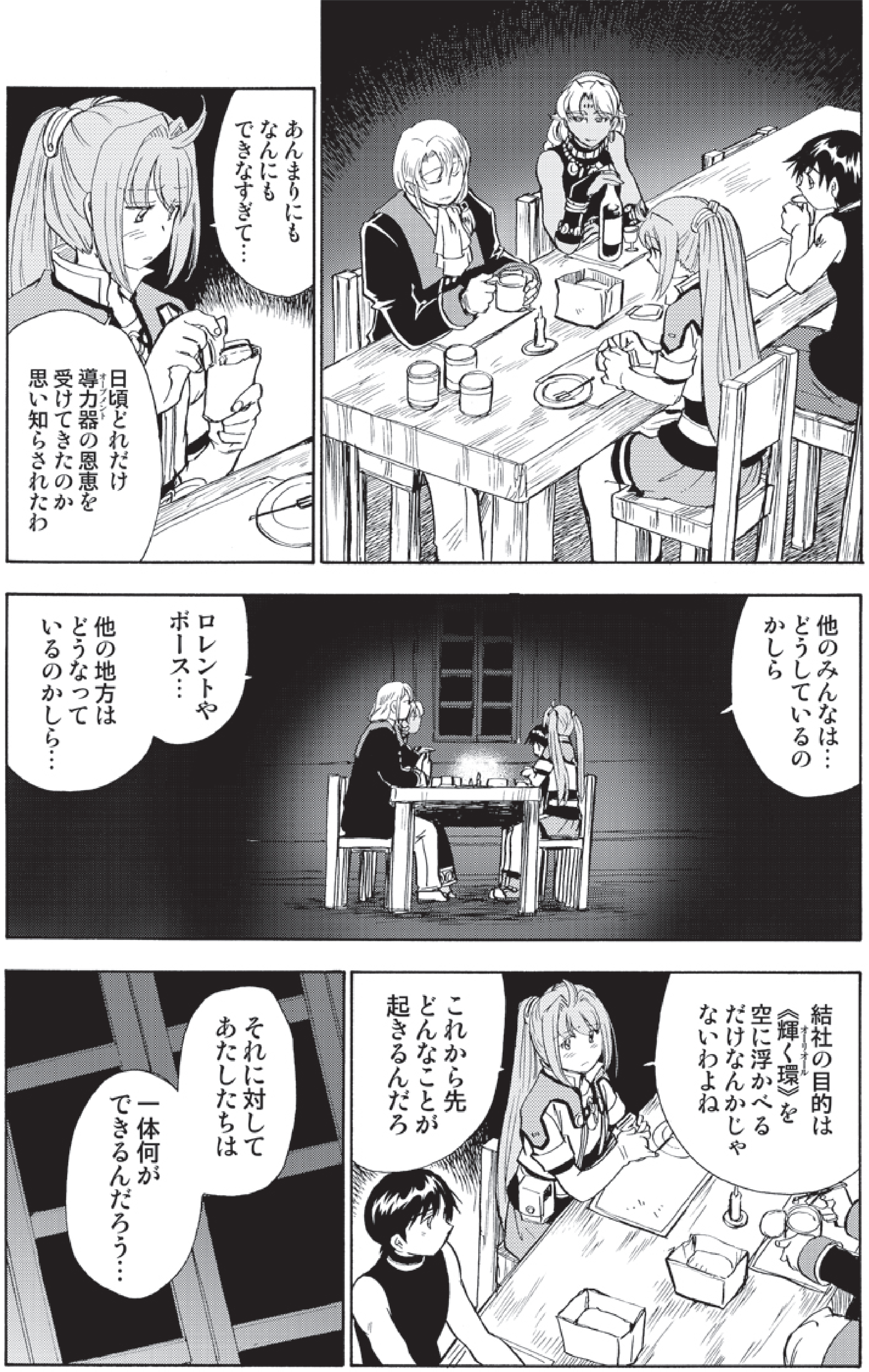

うん おそらくは
これまでの経緯からもあれが結社の求めてた《輝く環》(オーリオール)である可能性は高いと思う
《輝く環》(オーリオール)!? あれが…
あ…あんな高い所に…
そうだ クローゼ!
アルセイユを動かせないかしら?
リベール王家が誇る世界最高峰の高速飛行船よ!
アルセイユであの浮島に乗り込めば問題は一気に解決できるかも…!

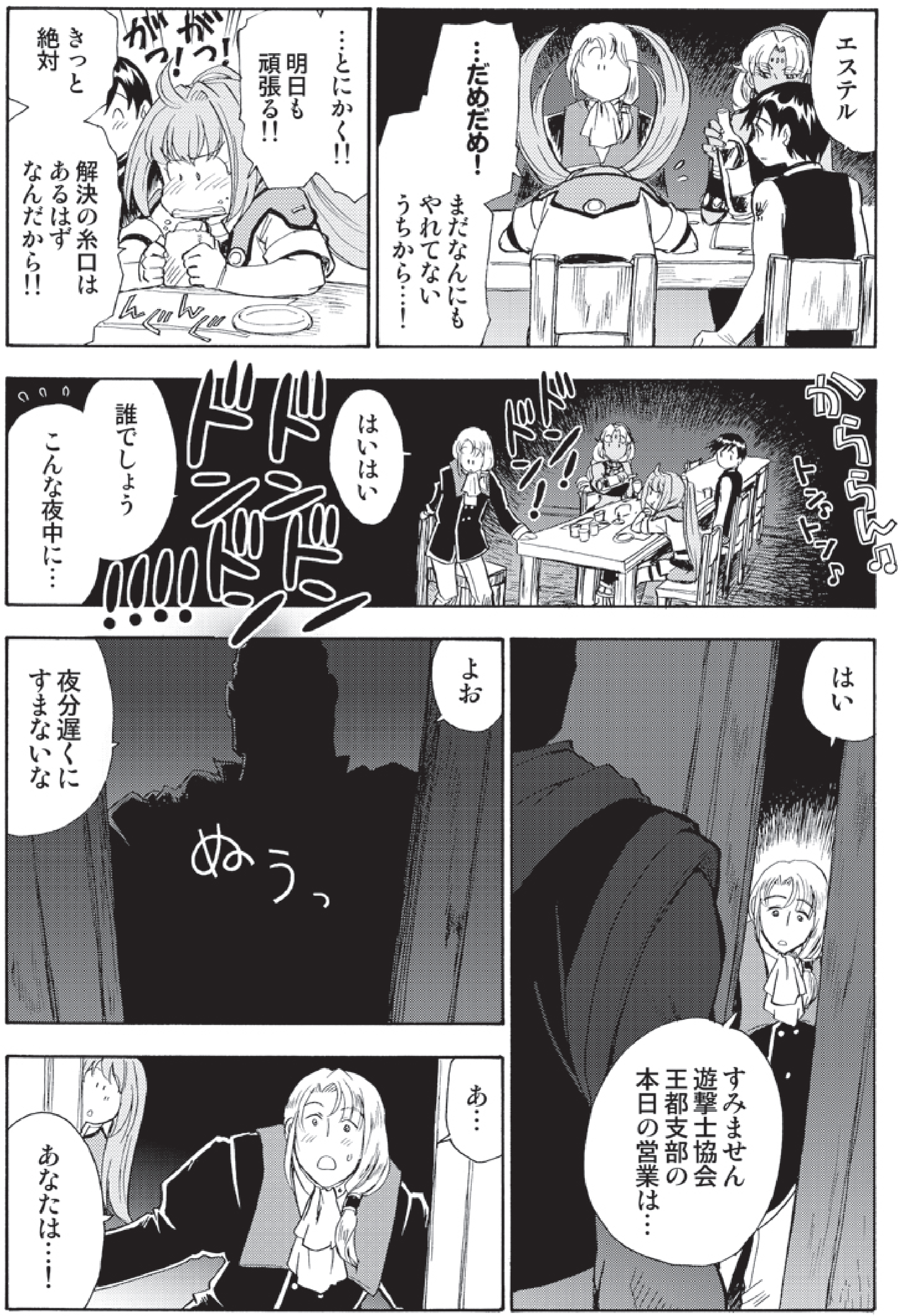

す…
すみません…
導力通信が使えないのでアルセイユが今どこにあるかもわからないんです
そっか…
…それに
アルセイユは…女王の船ですから
私の一存で動かすことはできません
お祖母様に尋ねてみる必要がありますが
今…とてもたてこんでいて…
すぐに許可が得られるかどうか…
すみませんお役に立てなくて…
ううん！クローゼが謝ることじゃないのよ!?
それにアルセイユは導力器技術の結晶みたいなものだからね
導力停止現象の影響を受けないはずはないと思うよ
たぶんまっさきに動かない
あ…そうか


あっ
で…でも もしかしたら
レイストン要塞ならまだ動ける軍艦があるかも…！
私…っ
わー
今すぐ行って確かめ…
落ち着いて！姫様！
何かしたいと焦る気持ちはわかるけれど
それは 今 貴女がするべきことかしら？
王家を頼って集まった国民に背を向けてまで


クローゼ！
これ！
協会に集まったみんなの声！
よかったら参考にしてみて！
大丈夫！
今回もきっとみんなの力でなんとかできるから！
だから今は焦らないで！
自分がそれぞれできることをしっかり考えて
一緒に…乗り越えよう！
は…
はい…
何かわかったら連絡するわ！
はい
大変だけど頑張ろうね！
はい！


私に
できること…
結局
王都全域で導力器（オーブメント）が動かないってことしかわからなかったね


あんまりにもなんにもできなさすぎて…
日頃どれだけ導力器の恩恵を受けてきたのか思い知らされたわ
他のみんなは…どうしているのかしら
ロレントやボース…
他の地方はどうなっているのかしら…
結社の目的は《輝く環》を空に浮かべるだけなんかじゃないわよね
これから先どんなことが起きるんだろ
それに対してあたしたちは一体何ができるんだろう…


エステル
…だめだめ!
まだなんにもやれてないうちから…!
がっ!がっ!
…とにかく!!
明日も頑張る!!
きっと絶対
解決の糸口はあるはずなんだから!!
んぐんぐ
からら～ん♫
ドンドン!ドンドン!
はいはい
ドンドンドンドン!!!!!
誰でしょうこんな夜中に…
はい
よお
夜分遅くにすまないな
ぬうっ
すみません遊撃士協会王都支部の本日の営業は…
あ…
あなたは…!

次回に続く



『英雄伝説 空の軌跡FC』
ノベライズシリーズ
ついに完結!!
英雄伝説
空の軌跡
3 王都繚乱
正遊撃士になるため、リベール国内の各都市を巡っていたエステルとヨシュア。その旅路の中、失踪していたはずの父・カシウスから漆黒のオーブメントが届く。ふたりは父の行方と導力器の正体を探るべく天才導力学者ラッセル博士を擁する工房都市ツァイスへと向かうのだが……。
英雄伝説
空の軌跡
3 王都繚乱
● はせがわみやび
Illustrator
● ワダアルコ
英雄伝説 空の軌跡
1 消えた飛行客船
価格：1,200 円+ 税
英雄伝説 空の軌跡
2 黒のオーブメント
価格：1,200 円+ 税
既刊シリーズも
好評発売中!!
2017年
好評発売中!
原作：日本ファルコム（『英雄伝説 空の軌跡』）
著：はせがわみやび
イラスト：ワダアルコ
価格：1,400 円+税
ISBN:978-4-8021-3067-7
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.
©MIYABI HASEGAWA,WADARCO
©FIELD-Y



英雄伝説
空の軌跡SC
4
ソラノキセキSC
〜絆の在り処〜
結社《身喰らう蛇》に囚われたエステル。脱出を試みたエステルだったが、《グロリアス》の強固な守りの前に再びピンチに陥る。そこに現れたのは、これまで行方をくらましていたヨシュアであった……。運命に導かれたふたりが再び巡り会う、誰もが待ち焦がれた瞬間を描く第4巻！
やっとあたしは、
ヨシュアに届くことができた。
著者：啄木鳥しんき
原作：日本ファルコム
定価：本体800円+税
ISBN:978-4-8021-3156-8
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.
©KITSUTSUKI SHINKI ©2018 FIELD-Y
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイ公式HPはこちら www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら www.field-y.co.jp/falcombooks

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

劇中曲全62曲を完全収録！

『イースⅨ-Monstrum NOX- オリジナルサウンドトラック』2019年11月22日発売決定！

PlayStation®4用タイトルとして好評発売中のアクションRPG「イース」シリーズ最新作、『イースⅨ-Monstrum NOX-（モンストルム・ノクス）』より、劇中使用曲を完全収録したCD3 枚組音楽アルバム『イースⅨ -Monstrum NOX- オリジナルサウンドトラック』を2019年11月22日（金）に発売。さらに、各音楽配信サイトでのダウンロード販売のほか、「e-onkyo music」「mora」「music.jp」などハイレゾ配信サイトでのハイレゾ音源版販売も同日より開始します。

■通常版



■初回生産限定版



「通常版」と同時発売となる「初回生産限定版」はトールケースサイズのパッケージを採用し、怪人たちの姿をシルエットで再現した「MONSTRUM シャドウスリーブ」仕様！ リバーシブルジャケットになっているため、ジャケットとスリーブを差し替えることで劇中のとあるシーンを再現することが可能になっています。更に、「初回生産限定版」のみの特典として、EDビジュアルを使用した「ED イラストカードセット」をパッケージに封入しています。

■イースⅨ -Monstrum NOX- オリジナルサウンドトラック

発売日：2019 年 11 月 22 日（金）
収録曲数：全62曲（CD3枚組）
価格 :【CD盤】
[初回生産限定版] 3,800 円（税抜）／
[通常版]3,500 円（税抜）
【ダウンロード版】
[アルバム] 2,917 円（税抜）
[単曲] 139 円（税抜）
【ハイレゾ音源版】
[アルバム] 3,148 円（税抜）
公式サイト : https://www.falcom.co.jp/ys9/

●音楽配信サイト
《iTunes® Store》http://itunes.apple.com/jp/artist/id120174391
《Amazon デジタルミュージック》http://j.mp/VSjC6N
《mora》http://mora.jp/artist/299183/all
《music.jp》http://music-book.jp/music/Artist/141849/Album

●ハイレゾ版音源配信サイト
《e-onkyo music》
http://www.e-onkyo.com/search/search.aspx?label=Falcom
《mora ハイレゾ配信ページ》http://mora.jp/artist/299183/h#discArea
《music.jp ハイレゾ配信ページ》
http://music-book.jp/music/Artist/141849/hiresoalbum
※ハイレゾ音源版は全曲96kHz／24bit(WAV&flac) となります。
※「iTunes® Store」では高音質・DRMフリーのiTunes Plusで世界111ヶ国、ファルコム楽曲4,955曲を配信。

英雄たちの物語は印鑑へー「空」・「零碧」・「閃」３つの軌跡から45キャラクターが登場！

『閃の軌跡Ⅳ／軌跡シリーズ』痛印 第２弾発売決定！

今回の第2弾は、キャラクター数を大幅に増やした全45種を完全受注生産にて販売。第1弾では登場しなかったⅦ組のメンバーや、結社《身喰らう蛇》、Ⅶ組を支えるキャラクターたちが出揃い、軌跡シリーズの特徴の1つである、多くのキャラクターとその魅力を存分に踏襲した痛印となっています。
『空の軌跡』からはレーヴェことレオンハルトやアネラス、ケビン、リース。『碧の軌跡』からはノエル、ワジも登場し、往年のファンにも嬉しい、軌跡シリーズ15周年を記念する"印"となったアイテムとなっています。印鑑ケース、捺印マットは第1弾で好評だった各タイトルのメインビジュアルのデザインを継続販売。さらに、『閃の軌跡Ⅳ』のエンディングに登場した感動の場面のデザインが新たにラインナップに加わりました。軌跡シリーズのキャラクターたちが一堂に会した披露宴の場面は印鑑ケースに！
集合写真《大団円》は捺印マットにデザインされています。捺印マットは飾ればイラストボードとしても楽しめます。実用性はもちろん、コレクションやインテリアとしても最適な逸品に仕上がっています。





丸印 18mm: 45種
各 3,600円（税別）



印鑑ケース: 4種
各 2,500円（税別）



捺印マット: 4種
各 2,000円（税別）



痛印堂　https://www.itaindou.com/
2019年10月18日（金）～2020年1月14日（火）までの、期間限定受注販売。また、10月11日（金）からは「閃の軌跡Ⅳ／軌跡シリーズ」×痛印堂の特別動画も痛印堂のTwitterアカウント（@itaindou）にて配信されているので、こちらもお見逃しなく！
※ご注文が集中した場合、受注を終了させて頂く場合があります。

【痛印堂のハンコは銀行印としても使用可能】
『閃の軌跡Ⅳ／軌跡シリーズ』痛印は、お客様のご要望に合わせて商品の製造を行うオーダーメイド方式になります。お好きな絵柄の中から、彫刻文字や書体をお好きなようにお選び頂くことで、既製品のグッズとは異なる貴方だけの痛印をご提供致します。さらに『閃の軌跡Ⅳ』痛印は、実名入りなら銀行印として使える印鑑になります。メガバンクを始め多くの銀行での使用実績を持つ痛印は、普通のキャラクターグッズにはない実用性の高さでお客様から評価を受けております！
※登録を保証するものではございません。口座開設や実印登録にご利用される予定がある場合には、事前に該当する銀行・機関等への確認をお奨め致します。



【痛印購入者限定！みっしぃからの贈り物！？"みししな痛印缶バッチ"プレゼント】
「閃の軌跡Ⅳ／軌跡シリーズ」第２弾の痛印1本をご購入につき、マスコットみっしぃにちなんで合計344個の痛印缶バッチをランダムで1個プレゼント！痛印のデザインがそのまま缶バッチになった痛印堂限定の購入特典となっています。第1弾も含めたリィンやクロウ、アルティナ、第２弾からもユーシスやマキアス、ティオなど全15種類をご用意していますので、ぜひ手に入れてください！

みししな痛印缶バッチ<全15種類>
リィン、クロウ、アルティナ、ユウナ、クルト、アリサ、フィー、ユーシス、マキアス、エステル、ヨシュア、ティータ、ロイド、エリィ、ティオ

「軌跡」15周年イラストから最新作「イースⅨ」まで美麗イラストがA2大型サイズカレンダーに！

『ファルコム壁掛けカレンダー 2010』12月発売決定!

「イースⅨ -Monstrum NOX-」や「軌跡」シリーズなど、ファルコム作品の美麗イラストを使用した2020年のA2サイズ壁掛けカレンダーが登場！日付は下部にレイアウトされているため、A2サイズの美麗イラストをたっぷりとご堪能いただけます。

■発売日
2019年12月18日(水)
■価格
2,800円(税抜)
■予約ページ(ファルコムショップ)
https://falcom.shop/products/detail/305



※画像は制作段階のものです。デザインが変更になる可能性がありますのでご了承ください



10月の新／衣装替えキャラクターをチェック！

ハロウィン・ナハト

10月といえばハロウィン！ということで、ナハトが「キョンシー」のコスプレ姿に。メイクもバッチリ決めて意外とノリノリ？　胸元の悪みっしぃが可愛い。

旅服・ヨシュア

ヨシュアが『閃の軌跡Ⅳ』で見せた旅服姿で登場！　年齢も初登場時の16歳から20歳へと歳を重ね、グッと大人っぽい容姿になっている。

ミュゼ・イーグレット

トールズ士官学院・第Ⅱ分校の特務科《Ⅶ組》のメンバー。かつては聖アストライア女学院に在籍していたが、トールズの分校化を機に編入。事あるごとに底知れない部分を垣間見せていたが、実は帝国内戦を引き起こしたカイエン公爵の姪にして、次期公爵であることが明らかとなった。

ハロウィン・クローゼ

クローゼは返り血が生々しいナース姿に。焼けてしまったのか、深く切れ込んだスカートがなんともセクシーだ。クローゼはお茶目なところもあるのでノリノリでコスプレをしてそうだ。

11月の新規衣装替えキャラクターは？

※画像は開発中のものです。　※上記のイベントは状況により内容の変更を行う場合があります。

THE LEGEND OF HEROES 暁の軌跡

アカツキノキセキ

毎月魅力的な新キャラクターや衣装替えキャラクターが大注目の『英雄伝説 暁の軌跡』。10月はメインストーリー第7章第3弾が実装！そして先月に引き続き「閃の軌跡Ⅳ」から新キャラクターが参戦！

『英雄伝説 暁の軌跡』公式ホームページ
http://akatuki.ujj.co.jp/

公式ツイッター
https://twitter.com/akatsuki_ujj

メインストーリー第7章第3弾「リーヴ帰還／後篇」が実装！

依然として公都への侵攻を続ける巨大魔獣。《ライアットVC》のエスペンらの協力により一時的に動きを止めることに成功するが“ヤツ”はすぐさま立ち上がる。

為す術はない――。

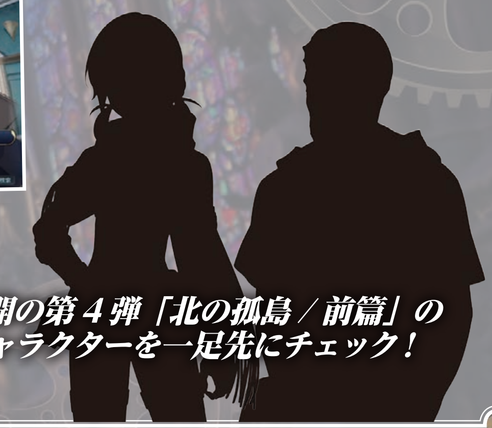
誰もがそう思い始める中、ある人物を乗せた1台の導力車が轟音とともに現れるのだった。











近日公開の第4弾「北の孤島／前篇」の登場キャラクターを一足先にチェック！

英雄伝説 碧の軌跡

いつか貴方とお茶会を

著者:むらさきゆきや
イラスト:窪茶



『月刊 Falcom magazine』で好評を博した『英雄伝説 零／碧の軌跡』の主人公・特務支援課がゆる～く活躍するノベライズ作品の第二弾がついに発売！ 今回もゲーム本編とはひと味違った魅力満載の小説となっているぞ！

好評発売中!!

定価：1,100円+税
ISBN：978-4-89610-821-7

発行:フィールドワイ
発売:メディアパル

フィールドワイのHPはこちら→ www.field-y.co.jp

英雄伝説 零の軌跡

午後の紅茶にお砂糖を

著者:むらさきゆきや
イラスト:窪茶



日本ファルコムの大ヒット RPG『英雄伝説 零の軌跡／碧の軌跡』の主人公【特務支援課】は意外とまったり!? 本編とはひと味違った彼らのゆる～い毎日を描いて『月刊ファルコムマガジン』で大人気を博したノベライズ作品が単行本で登場！

好評発売中!!

定価:1,100円+税
ISBN:978-4-89610-255-0

発行:フィールドワイ
発売:メディアパル

フィールドワイのHPはこちら→ www.field-y.co.jp

第二章　ロイドの運命

2019年は『軌跡』シリーズ15周年！

英雄伝説　零の軌跡
～四つの運命～

歴代『軌跡』原作
ファルコムBOOKS
試し読み！



『軌跡』シリーズが2019年６月に15周年を迎えたことを祝して、『軌跡』シリーズを原作としたファルコムBOOKSのお試し読みができる特別企画。第10回は、特務支援課４人の過去を描いた田沢大典先生の『英雄伝説 零の軌跡 四つの運命』より、ロイドの過去を描いた「ロイドの運命」をお届け！

製品情報
好評発売中
著　　　：田沢大典
イラスト：松竜
定　　価：1,100円（税別）

兄が死んだ。
最初に言われた時は、何を言っているのか理解するのにしばらくかかった。

兄貴が死んだ……？

ロイドの兄ガイは、クロスベル警察の捜査官だった。エリート集団と言われる捜査一課に属し、多くの事件で手柄をあげ、さらなる活躍を期待されていた。
しかし、とある事件の捜査中に、何者かに襲われて、そのまま帰らぬ人となった。
危険な仕事だとは知っていたが、ロイドは兄が死ぬということを、まったく想像だにしていなかった。
ロイドの混乱を余所に、葬儀の手続きは慌ただしく進んでいた。
しかし、ロイドにはそれがどこか現実離れした出来事にしか感じられなかった。
今すぐにでも、

「いやぁ、悪い悪い」

などと言って、兄が帰ってくるのではないか。そう思っていた。
しかし、何度か挨拶したことのある、兄の友人という警察の人がやってきて、涙混じりにおくやみの言葉を述べたとき、これが本当のことなのだと、うっすらと理解した。

セシル姉(ねえ)を守らなきゃ。

次にロイドが考えたことは、それだった。
兄の恋人で、誰よりも兄を好きだった人。
彼女は今、とても悲しんでいるはずだ。現実感の伴わない自分よりも、ずっと。
だとしたら、俺が支えてあげなくちゃ。
兄とセシルと、いつも三人一緒だった。兄がいない今、自分が支えなくては。いや、自分以外に支えられる人間などいない、そう思った。
そこに、セシルへのほのかな愛慕があったことに、少年であったロイドは気づかなかった。
葬儀の日は、今にも降り出しそうな曇天だった。
喪服に身を包んだ大人たちが、うつむいて祈りを捧げている。ガイが埋葬された墓の前には、あふれんばかりの人が詰めかけていて、生前の交友関係の広さと人柄を物語るようだった。ま

だ若く、前途あふれる死を誰もが悼んでいた。
そんな中、ロイドはセシルの姿を探した。葬儀は朝から執り行われていたが、ずっと姿が見えなかった。
どこかで、泣いてるのかな……だとしたら、俺が行ってあげなくちゃ。そう思い、人混みを縫うように探していた時だった。
「ロイド！」
聞き慣れたセシルの声だった。ロイドはとっさに反応し、その方を向いた。
セシルは見慣れぬ喪服に身を包んでいた。
しかしその表情は——笑顔だった。
あっけにとられたロイドの元に、セシルが駆け寄る。そこではじめて彼は、セシルの表情の意味に気づいた。
「大丈夫、大丈夫だよ」
目尻に涙を浮かべつつ、いつもの笑顔をなんとか作りながら、セシルは言った。
「ガイさんの代わりに、私がお姉ちゃんになるから」
その言葉を聞いた瞬間、両肩に鉛を乗せられたかのような重みを感じ、肩を落とした

俺が……俺がセシル姉を支えなくちゃいけないのに！

支えられると思っていた。仮にも自分は男で、セシルはかよわい女性で。だからこそ支えなくちゃと思い上がっていた。
だが現実は、ただ一方的に心配されるだけ。
自分はそれほど弱々しく、頼りない存在なのだろうか？
それを認めたくなくて、でも認めるしかなくて、ロイドはぎゅっと拳を握りしめる。
泣くな、泣くな、泣くな。
心でそう思っていても、身体は、瞳は反発するように涙をためる。
そんな様子を見て、セシルは静かにロイドを抱きしめた。
「大丈夫、大丈夫だよ……」
その声がわずかに震えているのを聴きながら、ロイドは泣いた。ガイを失った喪失感、自分のふがいなさ、身体を通じて伝わるセシルの悲しみ。それらがすべてまぜこぜになり、やがて何故泣いているのかわからなくなっても、泣いた。

それから、数年の時が過ぎた。

クロスベル自治州有数の森林地帯である、ノックス森林地帯。その一画にある窪地に、クロスベル警察学校はある。

このあたりは市街地から離れているため娯楽は少ないが、その分、技能習得のためには最適な場所と言える。

クロスベル警察に勤務するあらゆる警察官は、ここで基礎をたたき込まれる。基礎教養から法律、クロスベルという国家の成り立ち、犯人を捕獲するための格闘術、その他さまざまなものを吸収してはじめて、警察官になる。

クロスベルは急速な経済発展を遂げ、それと比例するように犯罪も凶悪化していく中、警察の役割と負担は日に日に大きくなっている。

しかし、それを担うはずの若者はあまりいないのが現状だった。

警察学校内。『B講義室』と札が下げられた部屋に、明日のクロスベル警察を担う若者たちが集まり、授業を受けていた。

その数は二十名弱。みなクロスベル警察の制服を身につけていたが、階級章にあたる部分に、若葉を模したバッチをつけていた。彼らが警察学校の生徒である証である。

彼らは机を半円状に並べ、ひとりの教官を取り囲むように座っている。

その中に立つのは、同じくクロスベル警察の制服に身を包む、ひとりの初老の男だった。名をジェフという。顔には年相応のしわが刻まれ、頭部はだいぶ寂しくなってきているが、その眼光の力強さは、年齢を感じさせないものがあった。

ジェフはこの警察学校の教官のひとりであり、今は彼の講義による『模擬捜査会議』の真っ最中だった。

模擬捜査会議とは、実際にクロスベル警察で行われているような形式で、情報を提示され、そこからどのような捜査方針をとるべきか判断したり、犯人を推論したりする、実践的な授業である。それと同時に、この警察学校でも、一、二を争う難解な授業としてその名をとどろかせていた。

ジェフ教官は、手元の捜査資料を読み上げながら、部屋の前面に貼られたボードにある、容疑者や被害者の相関関係図を指し示し、説明している。

生徒たちは必死にメモを取っていて、教室内は筆記具を走らせる音と、ジェフ教官の声だけが響いていた。

そのジェフ教官の声が止まる。

「……以上が、今分かっている情報だ」

生徒たちの間に、とまどう空気が流れる。容疑者を特定するには、あまりにも与えられてい

る情報が少なすぎた。
「ではこの場合の捜査方針、分かる人」
生徒たちが顔を見合わせる。当てずっぽうに答えるしかないが、その後のジェフの理知的な反論、というか問い詰めが恐ろしく、なかなか手を上げられない。
その時、スッと手を上げるひとりの青年がいた。ジェフ教官は彼を指差し、答えを促す。
「ロイド・バニングス」
ロイドは、はい、と答え、イスから立ち上がる。一七歳という年齢らしい、キビキビとした動作だ。
「この場合は、まず被害者の家族の線を洗い直します」
教室内が軽くざわめく。それを無視して、ジェフ教官はロイドに問いかける。
「理由は？」
「犯行当時、家族しか知らない情報が多すぎます。それに、家族には事件が起きた時間のアリバイしか取っていません。容疑者とされる男Aと同じように、事件の直後だけでなく、その前後の時間も調査すべきです」
背筋をぴしっと伸ばし、要点をまとめて伝えるロイド。ジェフの前では怖じ気づき、しどろもどろになる生徒もいる中、まったく物怖じしない様子で答えた。

「大事な家族を失った悲しみにくれる人たちに、疑いをかけるようなことをすると？」
眼光するどくジェフ教官は言い放つ。老いてもなお衰えぬ威圧感は、彼がかつて捜査一課のベテラン刑事だったことを語るに十分だった。
ロイドは、その瞳をまっすぐに見つめ返す。
「その悲しみを生み出した犯人を捜すのが、俺たち警察官の仕事です。そのために嫌な役を引き受けるのは、仕方がないことだと思います」
ジェフの目元がふっと緩む。
「正解だ。我々の仕事は家族と一緒に悲しむことではない。強靭な意志と粘り強さで、犯人を追い詰めることだ」
促されて座ったロイドに、隣の席のフランツが小声ではやし立てる。
「さっすがロイド！」
「おだてても何も出ないぞ」
そう言って苦笑するロイド。実際、褒められたところで、得意になることはなかった。
兄貴なら、きっとそう考えて行動するはずだ——
捜査一課にいたこともある兄のガイ。その思考をトレースすれば、自ずと正解は見えてくる。言わば、アンチョコを持っているようなものだ。

「では、今日はここまでにしよう」
ジェフ教官の声で、生徒たちがみな立ち上がる。
「礼！」
ロイドの号令で、頭を下げる。それを見渡し、ジェフは教室を出て行った。
彼が出て行ったと同時に、生徒たちの緊張がほどける。
「はー終わった終わったー！」
「相変わらずジェー様はキッツい課題出すよなぁ」
生徒たちの間でも、ジェフ教官の講義は厳しくて有名だった。しかし、人間として魅力的なジェフ教官を慕う生徒は多く、『爺様』とひっかけた『ジェー様』というあだ名がついていた。
「それにしても、毎回毎回よく答えられるよなぁロイドは」
「しかもだいたいあってるし」
「そうかな？　問題点を指摘されることも結構あるけど」
「いやいや、普通はまず当たらないって」
ジェフの講義では、極端に情報が少ないケースや、逆に情報が多すぎて容疑者を絞りきれないケースが多く、プロの捜査官でも頭を悩ませるような設問で有名だった。警察学校に通っているとはいえど、素人に毛が生えた程度の生徒たちでは、到底太刀打ちできないのも当然である。

「ところでロイド、捜査官試験、受けたんだって？」
フランツの言葉に驚き、どうしてそれを、と口を開きかけたところで、他の生徒たちに取り囲まれてしまった。
「おいマジかよ!?」
「あれって実務経験ないと受けられないんじゃないのか？」
「推薦状があればなんとかなるらしいぜ」
「それなら俺もダメもとで受ければよかったなー」
「それよりロイド、どんな感じだったんだよ？　イケそうなのか？」
「お前じゃ空が落っこちて来ても受かんねーよ」
「いやいやー、さすがのロイドでも無理だろ」
「なぁ、面接とかあったのか？　現役の捜査官が面接するってホントか？」
「ちょ、ちょっと待ってくれ、みんな」
矢継ぎ早に質問を出されて、頭が混乱しそうだった。ロイドはみんなをなだめると、かみ砕くように説明した。
「まず、試験を受けたのは本当だ。推薦状を書いてくださった教官がいて」
ひとりが歓声を上げる。他の生徒たちが、静かに、とたしなめ、ロイドに続きをと促した。

「面接はあったけど、現役の捜査官じゃなかった。それはそうだよな、捜査で忙しいんだし」
「なんだよー、それはちょっと肩すかしだな」
「とはいえ、本物の捜査官と面接なんて、それはそれで緊張するしな」
「で、肝心の手応えの方はどうなんだよ?」
　フランツに言われ、ロイドは曖昧な笑みを浮かべた。
「正直なところ、分からないよ。やれることはやったけど……それと結果は別さ」
「でも『まるでダメだった』ってワケじゃないんだろ?　なら可能性はあるぜ」
　ありがとう、と答えるものの、正直なところロイドは、結果にはまったく期待していなかった。何もかもがトントン拍子に上手く進むとは思っていない。
　ただ、今回ダメでも、合格するまで粘り強く受け、絶対に捜査官になる、と堅く心に決めていた。
「ひょっとして……いきなり捜査一課に配属、なんてこともあるんじゃないか?」
　捜査一課。クロスベル警察捜査課のひとつで、重要犯罪を専門に扱う、エリート中のエリートである。捜査官を目指す者にとって、一課の名前は特別な響きと重みがあった。
　しかしロイドは、それはないよ、と即答した。
　捜査官になるのすら困難なのに、その捜査官の中でも、エリートしかなれない捜査一課に配属されることは、夢のまた夢のように思われた。

　だけど、いつかは捜査一課の一員になりたい。そうロイドが考えるのは、兄ガイが殉職するまで所属していた課だからでもあった。
　その時、開けっ放しの教室のドアをノックする音が響いた。皆が振り向くと、そこには女性教官のケイトがいた。ロイドのまわりにたむろしていた生徒たちの何人かが歓声を上げる。警察学校では女性教官は少なく、一部の生徒たちからはマドンナ的存在として扱われているのだ。
　ちなみに彼女は普段、巡査としてクロスベル市街で働いているのだが、定期的に警察学校にやってきては、臨時教官としてロイドたち生徒を教えている。クロスベル警察と同じく、警察学校もまた人手不足なのだ。
「ロイド君、いる?」
「あ、はい」
　ロイドはイスから立ち上がって、ケイトの元へ駆け寄る。
　はいこれ、と言って、ケイトは封筒を差し出した。封筒には、クロスベル警察の紋章が印刷されている。公式な文書を入れる際に使うものだった。
「あの……これは?」
「心当たりあるんじゃない?」
　なおも首をかしげるロイド。開けてみなさい、と促され、封筒を開けるとそこには、『捜査

官認定試験の結果のお知らせ』と書かれた一枚の書類が出てきた。
さらに視線を下にずらしていくと、

『合格』

という文字が目に飛び込んできた。
「おめでとう、ロイド君」
顔を上げると、ケイト教官の笑顔が目に入った。
「実務経験がないままの合格は、数例しかないわ。教官たちも皆、あなたを誇りに思ってる」
ありがとうございます、というロイドの言葉は、フランツをはじめとする友人たちの歓声にかき消されてしまった。
夜の帳（とばり）が下り、皆が寝静まる頃。
ロイドは部屋で、机の灯りひとつを頼りに法令書を読みふけっていた。
警察学校は全寮制で、寮の建物は講義をする建物から徒歩数分のところにある。みっちりと訓練にはげめる環境は理想的ではあるが、生徒たちからは嫌われてもいた。
寮の部屋はふたりで一部屋を使うのだが、同室であるフランツは、既にベッドに潜り込んで

いる。
「ロイド～、まだ起きてるのかよ」
「すまない、眠れないか？」
「もう慣れっこだよ……」
そう言って大きなあくびをするフランツ。勉強家のロイドと同室になったのは彼の不幸だが、フランツは大家族で育っていたため、多少明るかったり騒がしくても眠ることができた。
「でもさぁ、なんで来なかったんだよ。お祝いなんだから、おごるって言ったのに」
フランツはとろんとした声で続ける。彼が言っているのは、ロイドの捜査官試験合格にかこつけた祝宴のことだった。
ケイトから合格発表を告げられた後、生徒たちは大騒ぎとなり、さっそくクロスベル市街へ祝杯をあげにくりだそう、ということになった。
だが、当事者であるロイドが市街へ行くことを頑なに拒んだため、一部有志のみで行くこととなったのだ。
「ま、ロイドのお祝いとか言って、ただ単に俺たちが騒ぎたいだけなんだけどさ」
そう言って、ベッドから身を乗り出して笑うフランツ。ロイドはその裏側に、つきあいの悪い自分をフォローしてくれる気遣いを感じ取っていた。

「悪い」
「だからいーって。でもさ、ここにずっといたら、息が詰まらないか？　ロイド、学校入ってから一度もクロスベルに行ってないだろ？」
それは本当のことだった。正確に言うと、兄の死後、叔父の家に引き取られてからは一度も行っていない。
ロイドはあいまいな笑みを浮かべた。
「買い物とかは困っていないし、それに今は勉強が忙しいから」
フランツは、ふーん、と気のない返事をし、そのままあくびをすると、もぞもぞとベッドに潜り込んでしまった。
再び静かになった部屋の中で、ロイドは法令書を見つめる。だが、その目は文字を追っていなかった。
クロスベル、か……。
そう、心の中でつぶやく。
兄ガイの死後、兄の婚約者であったセシル一家の誘いを断り、国外にある叔父の家を頼った。そして十七歳になるのを待ち、すぐに警察学校に入校した。

市街までは、小一時間ほどの距離だ。行こうと思えばいつでも行けた。しかしそれをしなかった。
兄と同じように捜査官になり、一人前になるまでクロスベルには帰らない――そう心に誓っていたからだ。
まったく、子供じゃあるまいし。
そう思い、思わずふっと顔を緩めた。が、その表情にすぐに影が落ちる。
――子供なのかもしれないな、俺はまだ。
ロイドは机の引き出しを開け、今日もらった合格通知を取りだした。『合格』の文字をじっと見つめる。
捜査官試験に合格すれば、一人前になれると思ってた。けど……今の自分は、果たして一人前と言えるのだろうか？
自問しても、答えは出ない。
机の前の壁に貼りつけてある、写真を見た。そこには、三年前に撮った写真が貼ってあった。セシルと、ロイドと、ガイの姿がある。
「……兄貴」
灯りひとつの薄暗い部屋の中で、ロイドは写真に声をかけた。

「追いかければ追いかけるほど、兄貴の背中が遠くなっていく気がするよ」
ロイドの声に答えるものは、誰もいなかった。

月日が過ぎ去るのはあっという間だった。
捜査官試験合格の報に喜ぶ間もないまま、ロイドは警察学校のカリキュラムをこなしていった。
そして気づけば、すべての訓練課程は修了し、警察学校を卒業する日となった。
正確に言うと『警察官となるための訓練課程の修了』なのだが、みな『卒業』という言葉が通りがよいのでそちらを使っていた。
体育館兼講堂で、簡単な式が執り行われた。いわゆる卒業式である。
教官たちが並び、自分が指導し、しごいてきた生徒たちを見守る。
入ってきた当初は幼さを残した顔つきも、今ではきりりと引き締まっていて、成長を感じさせた。その様子を見た教官の何人かは、うっすらと目に光るものをためていた。
式が終わった後。大半の生徒が寮に戻り、学校は静けさに満ちていた。
そんな中、ロイドは歩き、教官室の扉の前に立った。

軽く息を吸い込み、ノックをする。
「失礼します」
そう言って扉を開けた。
座っていたイスを回し、ジェフ教官が、おう、と答える。
教官室は学校で言うところの職員室にあたる場所で、各教官はそれぞれ机を割り当てられている。
ジェフは、並べられた机の奥、窓際の日当たりのよい場所に陣取っていた。
そこまで歩き、彼の前で止まる。
ジェフはイスに座ったまま、教え子の晴れ姿を上から下までゆっくりと見た後、言った。
「ロイド・バニングス。卒業おめでとう」
「ありがとうございます、ジェフ教官。教官には、いろいろお世話になりっぱなしで、なんとお礼を言っていいものか」
ロイドの言葉に嘘はなかった。兄のような立派な捜査官になりたい、というロイドにとって、捜査一課たたき上げの捜査官であったジェフの言葉・考え方は、まさに生きた教科書だったからだ。
「捜査官試験の推薦状を書いてくださったのもジェフ教官でした。教官の推薦をいただけなけ

れば、試験を受けることすら許されなかったとお聞きしています」
「買いかぶりすぎだ」
軽く手を振って否定するジェフ。しかし、ロイドの言うことは事実だった。
捜査官試験を受けるためには、捜査官資格を持つ上司の推薦状が必要となる。
本来なら、警察官となった後で現場で働き、その活躍や能力が認められて、はじめて推薦状を書いてもらえるものだ。
いわばロイドは、特例で受けることが許された。それは、ジェフの昔の肩書きと、その時に培った警察内部のコネクションが無ければ不可能だっただろう。
「それから……退任されるとのことで、残念です」
「定年だからな。これからは、のんびりと余生を過ごすさ」
ロイドたちと時を同じくして、ジェフもこの警察学校を去ることになっていた。
「息子夫婦が、一緒に暮らさないかと言ってくれてな。クロスベルを去るのは少し寂しいが、孫と過ごせるのならそれも悪くない」
そう言って目を細める。
数多くの犯罪者と、出来の悪い生徒たちを震え上がらせてきたジェフも、孫には勝てないということか、とロイドは内心で微笑んだ。

「いいおじいちゃんになりそうだ、とか思っていたのか？」
「い、いえ、そんな」
ズバリ言い当てられて、ヒヤリとする。このまま話を続けるのはまずいと判断し、話題を変えることにした。
「ところで教官、今日は何の用事でしょう？」
ロイドはここに、別れの挨拶をしに来たわけではない。もちろん、式の後にちゃんと挨拶をするつもりでいたが、先に声をかけたのは、ジェフの方だったのだ。
彼はロイドを見つめ、軽くお茶でも誘うかのような口調で切り出した。
「最後に一問、君に解いてもらいたい問題があってな」
「え……」
「模擬捜査会議だ」
ジェフのひと言で、空気が変わったようにロイドは感じた。ただ別れを言うために呼んだのではなく、最後の講義を受けさせるために自分は呼ばれた、そう理解した。
「どうかね？」
「ぜひ、お願いします」
ロイドは間髪入れず答える。ジェフからは多くのことを学んだが、まだまだ学び足りないと

思っていた。最後に自分にだけ、講義をしてくれる。しかも、彼の最後の生徒として。その好意と栄誉を断る理由はどこにもなかった。

「よろしい。では、最後の模擬捜査会議をはじめる」

ジェフ教官は言い、目を閉じた。講義をするときの、彼の癖だった。この癖を見るのも最後か、という感傷が一瞬ロイドの心をよぎったが、すぐに集中し直した。ジェフ教官の最後の難題を、絶対に解いてやろう、という思いからだった。

しかし、意気込んでいたロイドは、ジェフの言葉に肩すかしを食らった。

「この事件では、容疑者の目星は既についている」

それでは捜査をする意味がない。そう思った矢先に、ロイドが思いもしなかった言葉が飛んできた。

「しかしその犯人は、帝国の有力者であることが分かっている」

ジェフ教官は事件の概要を述べた。中身はよくある詐欺事件だったが、被害者はクロスベルの小さな商店の店主、容疑者は帝国から派遣されている駐在武官、というものだった。

「複数人の証言もあり、立件は容易だ。だが、もし立件した場合、帝国派の議員から捜査への横やりが入る可能性は非常に高い。さらに、駐在武官というのも問題だ。帝国軍そのものへの敵対行動と取られ、ベルガード門のあたりに緊張が走ることは避けられないだろう」

「ですが……もしここで立件しなくては、その……」

ロイドの歯切れの悪い言葉を、ジェフはぴしゃりと叱る。

「ロイド・バニングス、言うべきことは、ちゃんと言いたまえ」

その言葉にロイドは姿勢を正し、はっきりとした声で言った。

「はい。ここで立件しなくては、警察に対する不信感が根強くあります。警察は弱腰、と市民に取られます。クロスベル市内では、警察に対する不信感が根強くあります。最悪、遊撃士協会につけ込まれ、彼らが調停に乗り出してくることとでしょう。そうなれば、ますます信用が無くなり、今後の捜査にも支障を来すと思われます」

警察学校で、警察に対する批判をする。ロイドにとっては冷や汗ものの状況だったが、ジェフは意に介さず続けた。

「その通りだ。……で、君ならどうする?」

それは、と口に出して、ロイドは固まってしまった。

容疑者がほぼ確定している状況なら、立件して捕まえるのは当然だ。……だが、これは多分に政治的な問題をはらんでいる。一捜査官が判断すべき問題ではないのでは……いや、そうじゃない。現に犯罪の被害に遭い、困っている人がいるんだ。それを助けないで、なんのための警察だ。

ロイドは頭の中で議論を続ける。しかし、答えは出そうにない。
兄貴ならどう考える？　自然と、いつもの思考パターンに行き着く。しかし今回は、すぐに答えは出てこなかった。
兄貴なら、確実に犯人を追いかける……いや、捕まえたところで、外交官特権などを使われて確実に逃げられる相手を捕まえるだろうか？　他の容疑で立件する？　……いや、それも無理だし、この場合は逃げられる点に変わりはない。ロイドの思考は、堂々巡りに陥っていた。
いつもなら、イメージの中で活き活きと動き、事件解決への糸口を見つけるガイの姿。しかし、今のロイドには、まるでイメージができなかった。
目の前には、ロイドをじっと見つめるジェフ教官の姿があった。急くことをせず、じっと待つ。捜査官時代の凄まじい忍耐力が垣間見えるようだった。
どれほどの時間が経っただろう。あるいは数十秒だったかもしれないし、数分だったかもしれない。しかし、ロイドにとっては長い長い時間だった。
「――分かりません」
あきらめたように、かぶりを振って答えるロイド。口にすると、みじめな気持ちが胸に広がった。
最後の難題を解き、晴れやかな気持ちで卒業したかったが、そのもくろみは見事に打ち砕かれた。
敬愛する教官にして、偉大なる捜査官の先輩。その彼に見込まれ、捜査官のスタートラインに立った気でいた。
とんだ思い上がりだ。
そう思い、拳をぎゅっと握りしめる。
そんなロイドの表情をじっと見つめ、ジェフは言った。
「それでいい」
「え……」
驚いて、ジェフの顔を見るロイド。
「それでいい」
同じ言葉を繰り返してから、ジェフは窓の外を見やった。
「クロスベルは、難しい街だ」
ロイドに語りかけていながら、ひとりごとのようにも聞こえる調子で、ジェフは続けた。
「急速に経済的繁栄は遂げたが、それと比するように犯罪数も増加の一途をたどっている。しかも、帝国と共和国に挟まれた立地から、双方の国の干渉も多い。政治・経済の両方で、だ」
ジェフは、卓上に置かれているエニグマ（携帯端末）に目をやった。それには、クロスベル警察の紋章が

描かれている。
「警察は、捜査官は常に、難しい選択肢を迫られる。容疑者は悪で、それを捕まえればすべて丸く収まる……という事件ばかりではない」
そこまで言うと、イスをまわし、ロイドを見つめる。そこには、答えを出せなかったことに対する怒りも、出来の悪い生徒への哀れみもなかった。
「君は性急に答えを出さなかったな」
そこにはただ、自分の意志を託す後輩へ向けた、真摯なまなざしだけがあった。
「申し訳ありません」
「責めているわけではない。それが君の選択なのだろう？」
「いえ……優柔不断なだけです。捜査官としては、恥ずべき事だと思っています」
ジェフは眼を細め、そうか、とだけ言った。
内心で彼は、ロイドは優柔不断なのではなく、思慮深いのだと捉えていた。早急な答えは、事態を悪化させることも多い。特に若さは、分かりやすく手っ取り早い答えを求めがちだ。
若くしてそれだけ多くの見方、視点を持つのは希有なことで、それは兄であるガイの影響がとても大きいのだろう、とジェフは考えていた。
行動力と大胆さがガイの持ち味だとすると、ロイドは慎重さと視点の多様さが持ち味になる。

それは、兄にはない、彼にしか持ち得ない長所なのだが、今は兄の背中ばかりに目が向いていて、自分の良さに気づけていない。
とはいえ、自信を持つためには、多くの経験が不可欠である。いま言っても、仕方ないことだろう。
内心でそう結論づけたジェフは、話題を変えることにした。
「ちなみに、だ。私はこの事件……いや、問題を、ある人物に問うたことがある。君の兄だ」
ロイドの目が軽く見開かれる。
「どんな答えだか、聞きたいかね？」
「ぜひに」
いつも以上に力を込めて、ロイドはうなずいた。
自分が想像もつかないようなすごい答えが出てくるに違いない。ロイドはそう考えた。
その期待に満ちた顔を見て、ジェフは顔をほころばせて言った。
「君と同じ『分かりません』だったよ」
「え……」
「といっても、その後に続けて『その時になったら、身体が勝手に動くと思います。それに任せます』と言ったがね」

そう言って、クックック、と笑った。
「それは……」
肩の力ががっくりと抜けたロイドを見て、微笑むジェフ。
「がっかりしたかね?」
「いえ――なんとも、兄らしいと思いました」
教官室に、珍しくジェフの大きな笑い声が響き渡った。

それから少し雑談をし、お茶を出そうとするジェフを制して、ロイドは帰る旨を告げた。
「それでは、そろそろ失礼します。改めて、お礼を言わせてください。本当に、ありがとうございました」
ジェフはイスから立ち上がりながら言った。
「礼などいいと言っただろう。だが……もし礼をしてくれる気があるなら、一日でも早く立派な捜査官となり、ひとりでも多くの犯罪に苦しむ市民を助けてくれ」
「はい!」
自然と背筋が伸び、声が大きくなった。
ジェフが差し出した手を、しっかりと握り返す。

「それと、さっきの答えを、いつか聞かせてくれ。今のクロスベルで仕事をした君が、どんな答えを出すのか、興味がある」
必ず、とロイドはうなずく。
こんなすばらしい師に巡り会えた自分は幸せだ。
ロイドは心の底からそう思った。

教官室を出て行くロイドを見送ってしばらく後。
ジェフは卓上にあるエニグマを取り上げ、手早く番号を入力した。
クロスベル市内に張り巡らされつつある導力ネットワークが、ここにも試験的に導入されているのだ。
何度かのコールの後、相手が出た。
「……あぁ、私だ。例の彼だが『分からない』と答えた。……そうか、お前のお眼鏡にかなったか」
イスの背もたれに身体を預け、天井を見やるジェフ。
「で、どうする? ……そうか、うむ、そうしよう。いやいや、一課の方にはダドリーを以前推薦した。しばらくは送り込まなくてもいいだろう。……それに、かわいい教え子の頼みとあれば、聞かないわけにはいかないからな」

電話口で相手が何か反論をしたようだが、ジェフは鷹揚に遮って続ける。
「伝説の脱走と無断外泊で、ここを追放処分になりかかった頃が懐かしいな、えぇ？」
相手が沈黙し、ジェフは愉快そうに微笑む。
「ま、切れ者すぎて冷や飯食らいの警部殿も、私にとっては、かわいい教え子ということだ。でなければ、警察学校の教官として腐っていたおまえさんを、現場に戻れるようかけあったりはしない」
はぁ、と向こうからのため息を聞いて、またもくっくっとノドを鳴らして笑った。
「では、ロイド君は特務支援課配属ということで。私からの最後の餞別だ。……次はお前が、みっちり鍛えてやってくれ。頼むぞ、セルゲイ・ロウ」
導力通信を切り、エニグマを置く。そのままジェフは、窓の外を見やった。
薄曇りの空からわずかに晴れ間が差し、陽光が若木に降り注ぐ。
寒さの中にも、萌芽を感じさせる光景だった。

導力列車がベルを鳴らし、レールの上を駆け抜けて行く。
共和国からクロスベルへと向かうその車中に、ロイドはいた。
先ほどホームで、世話になった叔父夫婦に別れを告げ、列車に乗り込んだところである。

レールのつなぎ目が作り出す、ガタンゴトンという定期的な音に眠気を誘われる。そんな頭を振り、胸元から一通の封筒を取り出し、その中にある辞令に再び目を通した。

『ロイド・バニングス捜査官
クロスベル警察・特務支援課への配属を命ずる。』

『捜査官』のところに何度も目を通して、ようやく辞令を封筒にしまった。

ようやく、ここまで来た。

車窓を流れる景色を見つめながら、ロイドは感慨に浸っていた。
一人前になるまで、クロスベルには戻らないと誓っていた。そして今日、兄と同じ捜査官として、クロスベルへ赴任する。ロイドにとって、ひとつの大きな区切りであった。でも、これはまだはじまりに過ぎない。ようやくスタートラインに立てたんだ。そう心の中でつぶやく。
我知らず、ぎゅっと拳を握る。そのことに自分で気づき、苦笑して、その拳をほどいた。
堅くなりすぎるのもいけない。少し眠っておこう。そう考えた瞬間、急に眠気が襲ってきた。

あくびをひとつかみ殺す。
昨日はさすがに興奮して、ほとんど眠れなかったのだ。
瞳を閉じ、背もたれに身を預けると、次の瞬間には眠りに落ちていた。

ひとりの青年の希望と不安を乗せ、列車はひた走る。
彼はまだ知らない。このレールの行き着いた先、クロスベルで待ち受ける運命を。
それは彼だけでなく、多くの仲間と敵を巻き込み、クロスベルの歴史に名を残すような大事件であった。



FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！

1 【1名様】
『閃の軌跡Ⅳ』
プレミアムグラスタンブラー

シックでカッコイイ、超レアなタンブラーをプレゼント!!





2 【5名様】
『も～っと集まれ！ファルコム学園』
缶バッジ

大人気!! オリジナル缶バッジを5個セットを
5名にプレゼント!（※絵柄はランダムです）

ご応募は特設サイトまで▶ http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、（falmaga@field-y.co.jp）まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.105プレゼント係

1：お名前（ペンネーム可）
2：面白かった記事の番号→
　つまらなかった記事の番号→
　（記事一覧から１つずつ）
3：『イースⅨ』のお気に入りキャラクターを教えて下さい
4：『イースⅨ』のお気に入りBGMを教えて下さい
5：希望するプレゼント番号
6：ご意見・ご感想など

記事一覧

1：イースⅨ最新情報
2：も～っと集まれ！ファルコム学園
3：英雄伝説 空の軌跡SC
　～絆の在り処～
4：ファルコムニュース
5：暁の軌跡最新情報
6：英雄伝説 零の軌跡 四つの運命

応募締め切り　11月27日（水）

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。



月刊FALCOM MAGAZINE Vol.105

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 河野崇
デザイン・DTP	株式会社 ACQUA
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（デザインクロッパー）
発行	株式会社フィールドワイ 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/